

三重看護学誌投稿規定

三重看護学誌編集委員会

1. 本誌の名称および目的

本誌の名称を三重看護学誌 (Mie Nursing Journal: MNJ) とする。MNJ は、看護学に関わる研究者、教育者、実践家等が、日々の研究・教育・実践活動上の課題や対策等について科学的根拠をもって広く一般に周知するとともに、独自性の強い研究成果を世に問うことを目的とする。そのため、幅広い看護学分野における論文を掲載し、原則として年1回発行する。

2. 投稿資格

原則として、筆頭著者または共著者に、以下の項目に該当する者が含まれているものとする（筆頭著者が学部生の場合には受け付けない）。ただし、委員会で承認された場合には、この限りではない。

- 1) 三重大学大学院医学系研究科教職員
- 2) 三重大学医学部附属病院の職員
- 3) 三重大学大学院医学系研究科看護学専攻在籍者または修了者等

3. 投稿原稿の種類

原稿は5種類であり、それらの基準は以下のとおりとする。枚数は、図表を除くものとする。

1) 総説 (9頁以内)

ある主題に関連した研究の総括であり、多面的な知見の集約と文献等のレビューにより、当該テーマについての学問的状況の概説と考察を行ったもの

2) 原著論文 (12頁以内)

独創的な内容あるいは新しい事実に基づき得られた知見と実践への示唆について、論理的かつ学術的に述べられている研究論文

3) 研究報告 (9頁以内)

独創的な内容あるいは新しい事実を含み、得られた知見が論理的に述べられている研究論文

4) 資料 (9頁以内)

実践または教育の発展に向けて、論理的に科学的根拠を示した研究論文

5) その他 (3頁以内)

委員会報告、MNJ委員会からの依頼原稿（巻頭言など）

4. 倫理的配慮

研究の着手、計画、実施、成果公開のすべての過程において倫理的な配慮がなされた論文を投稿する。ヒトおよび動物が対象である研究は、研究倫理審査委員会等の承認を経て、その旨を論文中に明記する。

5. 利益相反

全ての著者は、発表内容に関係する企業・組織・団体との利益相反状態について、「謝辞」欄の後に記述する。利益相反に相当しない場合は、「本研究における利益相反は存在しない」と明記する。

6. 執筆要領

原稿の作成は、別に定める執筆要領に従うものとする。

7. 投稿手続き

1) 投稿原稿を3部（正本1部、副本2部）印刷して提出する。ただし、副本は、投稿者氏名・所属、謝辞等の投稿者が特定される表記を削除する。

2) 投稿原稿を保存した電子媒体（USBメモリが望ましい）も提出する。電子媒体には筆頭著者名を記入する。

3) 本学ウェブサイトよりダウンロードした「投稿申込書」および「投稿論文チェックリスト」に必要事項を記入し、添付する。

4) 「三重看護学誌原稿」と表に朱書きした封筒に上記1)～3)を入れ、受付期間内に下記に書留郵送または持参する。受付期間は、当該年度の初めにMNJ委員会が決定し、本学ウェブサイトに掲載する。

〒514-8507 三重県津市江戸橋 2-174

三重大学大学院医学系研究科看護学専攻内 MNJ委員会

8. 原稿の受付および採否

- 1) 上記7の手続きを経た原稿の到着日を受付日とする。
- 2) 原稿の採否は査読を経て、委員会が決定する。MNJ委員会の依頼した者が査読を担う。
- 3) 査読により論文内容の追加・修正を求められた投稿者は、指定期間内に再提出する。期間内に再提出がない場合、投稿を取り下げたものとして扱われる。
- 4) 掲載論文の種類については、著者および査読者の意見を尊重し、MNJ委員会が最終的に決定する。

9. 校正

論文受付後の著者校正は原則1回とし、校正の際の加筆を認めない。

10. 著作権

掲載論文に関する著作権は、三重大学大学院医学系研究科看護学専攻に帰属する。掲載論文は電子化され、インターネット上に公開される。

11. 著者が負担すべき費用

- 1) 掲載料 原則として無料とする。
- 2) 別刷料 10部を超えて別刷を希望する場合は、著者負担とする。

附 則

この規定の改訂は、令和2年4月1日より施行する。

三重看護学誌執筆要領

三重看護学誌編集委員会

1. 投稿する原稿は、未発表のものあるいは他の学術雑誌に投稿中でないものとし、原則として和文または英文とする。和文論文にも英文の題名をつける。

2. 原稿は、次の要領に従い、綴りの順序は以下の番号の順とする。

1) 表紙

表題（和文および英文）、著者名（和名の場合は英語併記）、所属（日本語表記）を記述する。また、本文枚数（文献を含む）、図・表および写真等の枚数をそれぞれ明記する。

2) 要旨

和文（400字程度）および英文（250words）とする。要旨の後には、5単語以内のキーワード（Key words）をつける。但し、「資料」および「その他」の原稿には不要とする。

3) 本文

(1) 【原稿様式】原稿は、縦置き、横組1段とし、片面印刷とする。用紙は、A4判（白無地のコピー用紙）とし、余白は左右25mm、上30mm下20mmし、左辺に行番号、下辺中央にページ番号を付すこと。

(2) 【原稿書式】原稿の作成には、原則としてワードプロセッサを用い、本文には黒インクを使用して、1ページは40文字40行程度とする。本文で用いる書体は、原則として、和文に明朝体、英文にTimes体を用いて、文字サイズを12ポイントにする。見出しなどは必要に応じてゴシック体に変更し文字サイズを大きくしてもよい。

(3) 【論文構成】論文の基本構成は、原則として、序論・研究方法・結果・考察・結論・謝辞・文献とする。

(4) 【図表様式】図、表、写真は適切な位置に配置する。図は、原則としてグレー階調で作成する。図番号をアラビア数字で連番に振り、図のタイトルとキャプションを付けること。表も同様に、連番の表番号を振り、表のタイトルをつけ、必要に応じて表注を付すこと。

(5) 【略語】略語は、原則として、初出の際に正式名を記述し、括弧内に以降で使用する略語を記入し、略語の意味が理解できるようにする。

（例）日常生活動作（Activities of Daily Living、以降ADLと記す）

(6) 【文献記載】文献の記載は、ハーバード方式（本文中に著者名と発行年次を括弧書き）とし、共著者は3名までを表記する。記載方法は、下記の例示による。

【雑誌掲載論文】

<和文>

著者名（年次）. 論文の表題, 掲載雑誌名, 号もしくは巻（号）, 初頁 - 終頁.

《記載例》

畑下博世, 鈴木ひとみ, Saint Arnault Denise 他 (2015). ストレス対処に関する日本人女性の文化的特性について, 日本地域看護学会誌, 18 (2-3), 13-22.

<英文>

Author, A. A., Author, B. B., Author, C. C., et al. (year). Title of article, Journal name, volume (number), pp-pp.

《記載例》

Aiken, L.H., Sloane, D.M., Bruyneel, L. et al. (2013). Nurses' reports of working conditions and hospital quality of care in 12 countries in Europe, International Journal of Nursing Studies, 50(2), 143-153.

（出版前のオンライン公開版の場合はDOIを付ける）

Author, A. A., Author, B. B., Author C. C., et al. (year). Title of article, Journal name, Advance online publication. doi.

《記載例》

Stefana, A., Padovani, E.M., Biban, P. et al. (2018). Fathers' experiences with their preterm babies admitted to neonatal intensive care unit: A multi-method study, Journal of Advanced Nursing, Advance online publication. doi:10.1111/jan.13527.

【単行本】

<和書>

著者名（発行年次）. 書名（版数）, 出版社名, 発行地.

著者名（発行年次）. 論文の表題, 編者名, 書名（版数）, ページ数, 出版社名, 発行地.

《記載例》

中山和彦, 小森照久 (2000). こころの臨床 a・la・carte, 星和書店, 東京.

季節子, 澤田貴志 (2015). 在日外国人の医療, 日本国際保健医療学会編, 国際保健医療学 (第3版), pp.218-220, 杏林書院, 東京.

<洋書>

Author, A. A., Author, B. B. (year). Title of work, Location: Publisher.

Author, A. A., & Author, B. B. (year). Title of chapter or entry. In A. Editor, B. Editor, & C. Editor (Eds.), Title of Book (pp. xxx-xxx). Location: Publisher.

《記載例》

Meleis, A.I. (2017). Theoretical Nursing Development & Progress (6th ed.), China: Wolters Kluwer.

Fulton, S., Krainovich-Miller, B. (2014). Gathering and apprising the literature, In LoBiondo-Wood, G., Haber, J. (Eds.), Nursing Research: Method and Critical Appraisal for Evidence Based Practice 8th ed., (pp.49-74). China: Elsevier.

【翻訳本】

原著者名 (発行年次) / 訳者名 (翻訳書の発行年次). 翻訳書名 (版数), 出版社名, 発行地.

《記載例》

ポーリット D.F., ベック C.T. (2004) / 近藤潤子 (2010) : 看護研究 原理と方法 (第2版), 医学書院, 東京.

【オンライン文献】

著者名 (発行年次). タイトル, URL, 閲覧日.

《記載例》

日本看護協会 (2015). 平成 26 年度 保健師の活動基盤に関する基礎調査 報告書 (平成 26 年度 厚生労働省先駆的保健活動交流推進事業)

URL: <https://www.nurse.or.jp/home/publication/pdf/senkuteki/2015/26-katsudokiban.pdf>

(閲覧日: 2018 年 2 月 28 日).

附 則

この規定の改訂は, 令和 2 年 4 月 1 日より施行する.

専攻科外査読者名

小椋 透 (三重大学医学部附属病院臨床研究開発センター)

丸山 一男 (三重大学大学院医学系研究科生命医科学専攻)

(敬称, 五十音順)

編集後記

2019年度という年は、情報のもつ多様な側面を見せつけられ、考えさせられたことを記憶に残すべき年であったような気がします。

9月、10月、未曾有の雨量による広範囲の洪水(令和元年台風15号、19号)が立て続けに起こりました。報道では、被害を受けた人々が警報(情報)の発信されるタイミングの遅れに憤る様子と、情報を受けながらもその指示に従わなかったがために被害にあった人が情報に対してとった自身の行動を悔いる様子が映し出されていました。この時、被害の甚大さに驚愕したのは言うまでもないことですが、情報は、発信者と受け手両者の責任と意思によって成果を発揮するものであることを改めて感じました。そして2020年1月、新型コロナウイルス感染が世界中で広がりを見せ、終息のめどが立たないなかで、マスクはもちろんのことトイレットペーパーまでも不足しました。この発端は、不安をあおる情報でした。多くの人は、感染とトイレットペーパーの直接の関連がないことを認識し、情報に翻弄されて買占めに走る行動を自嘲しながらも脅威と背中合わせのなかで行動が取まらない状況が起こりました。また、刻々と変化する状況に乗じて情報も変化したことも不安の一因となりました。この編集後記を書いている今も、情報が次々に発信され、その内容も変化し続けています。受け手が常に新しい情報を求め、冷静に情報を扱う力が日々問われている状況にも見えます。

情報は、発信者の立場においては、真実を伝える責任と読み手に明確なメッセージが届くような魅力を備えることが重要となるでしょう。そのためにも発信者にも検索への責任が伴います。他方、受け手の立場においては、最新の情報や内容の変化を冷静に捉える力が求められるといえるでしょう。ここにも情報を検索する力が不可欠となります。昨今は、情報の有力な媒体のひとつにウェブサイトがあり、これは情報を縦断的にも横断的にも検索することとそれらの比較や分析を助けてくれます。もちろん冊子媒体の情報も検索、比較、分析を助けてくれますが、冊子が大量に集積されることによる収納や処分に新たな課題が伴います。

こうした時代の流れに乗じて、三重看護学誌も、今後ウェブ版のみで発信することを検討しています。情報発信の媒体として、冊子のもつ有益さへ敬意を払いつつ、ウェブサイトのもつ課題(安全性や永久性の脆弱性)に配慮や工夫を重ねながら管理方法を整えてウェブ版での管理に移行していきたいと考えています。

今後とも三重看護学誌にご注目いただき、発信された情報を確かな智恵に向上させていく歩みにご支援をいただきたいと思います。

2020年3月

三重看護学誌委員会委員長
竹内 佐智恵

三重看護学誌編集委員会委員

竹内佐智恵，水谷真由美，平松万由子，大北 真弓

三 重 看 護 学 誌

第 22 卷

| | |
|-------|--|
| 印 刷 | 2020 年 3 月 31 日 |
| 発 行 | 2020 年 3 月 31 日 |
| 発 行 者 | 三重大学大学院医学系研究科看護学専攻 〒 514-8507 津市江戸橋 2 丁目 174 番地 TEL (059) 232-1111 (代) FAX (059) 232-8065 |
| 印 刷 所 | 伊 藤 印 刷 株 式 会 社 〒 514-0027 津市大門 32 - 13 TEL (059) 226-2545 (代) FAX (059) 223-2862 |
